

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492100017		
法人名	有限会社 坂倉		
事業所名	グループホームとういん		
所在地	三重県員弁郡東員町鳥取1308-1		
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2492100017-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2492100017-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和4年12月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染対策のため、ボランティアサークルの来訪など外部との接触を避けるため自粛せざるを得ない状況にありましたが、少しずつ受け入れを検討しています。利用者様には毎月季節に沿ったレクリエーションを開催したり、普段と違う食事を一緒に作ったり、昼食にテイクアウトの弁当を注文したりと少しでも施設内での生活を楽しく過ごしていただけるようなサービスを提供させて頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「思いやりの心を大切に、その人がその人らしく地域で生活する」という理念のもと、1階が短期入所生活介護施設、2階がグループホームになっている。コロナ禍のため、地域のイベント参加や交流も現在控えざるを得ない状況ではあるが、管理者を先頭に、利用者・家族に対する思いやりの心を大切に、本人・家族の気持ちを最大限に考えて早い段階から対面の面会を実施したり、通院送迎を事業所が全て行うなどしている。そのような取組も相まって、利用者家族からの管理者・職員に対する期待や安心感は非常に高く、今後もコロナや様々な内部の困難な状況を乗り越えていける事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解し、理念に基づいて日々の支援を実践している。常に意識付けできるように業務日誌にも提示している	職員会議で何かあるたびに、理念である「思いやりの大切さ」に立ち返り、意識付けている。利用者の通院を、家族負担を減らすためできるだけ管理者が付き添い通院している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルス感染対策のため外部との交流は自粛しているが、少しずつ交流の機会を増やしていこうと企画している	コロナ感染対策を最優先課題としているため、地域との交流を控えているが、地域の理容店の訪問理容を定期的に受け入れていたり、徐々に今期は地域との交流を増やしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の小中学生の体験学習などを受け入れてましたが、現在は自粛中にある。機関との関係の維持に取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染対策のため書面開催を行い返信にて意見等を頂いているが、規定回数を満たせていない	前期の運営推進会議は、コロナ感染対策やそのほかやむを得ない事情だったが、書面開催は一度にとどめた。	運営推進会議は事業所の取り組みを外部に公開し、外部の評価や第三者との意見を交換できる貴重な場であることから、規定回数の開催を希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して情報交換等を行っています	行政とはコロナ感染対策や対応において、現状報告を行ったり、指示を仰ぐなど連絡を取り合い協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束に該当する行為の把握、廃止に向けての協議を実施している	身体拘束廃止の指針を整備し、廃止委員会を定期的に開催し、その内容を職員に周知し、職員に対して勉強会、研修会を開き身体拘束廃止の取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り等で利用者様への話し方や接し方など確認し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護制度の利用は無いため特別な研修等は行っていないが、行政のパンフレット等を基に今後に備えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明は読み合わせをして、質問等には丁寧にご説明して理解を得るよう努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは主に面会時または電話にてご意見等を頂いている	管理者は2週間に1度は家族に電話連絡をし、利用者の状況報告をし、その際意見や意向を把握するように努めている。家族からの要望である面会も、早い段階から対策をしたうえで対面で実施しており、家族から好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・日々の申し送りでの意見を集約し運営に反映している。会議の回数が少なかったため、今後意見集約の場を多く設けるよう努める	管理者は現場の支援に取り組んでおり、現場に関わる職員からの意見を聞く機会を日々設けている。	代表者・施設長は、介護職員と毎月会議や意見交換会等を行い、必要書類の確認や職員の意向・意見を聞く機会を定期的に設けられることを希望する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間について、扶養の職員はその範囲内で、日勤・夜勤両方できる職員は両方をバランスよく勤務に入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の見学や外部研修会には参加を奨励し、研修報告書は職員が閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北勢地域の介護施設のいくつかとコロナ対策を含め情報交換を行って、日々の取り組みに反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員と管理者がご本人の落ち着ける場所でアセスメントを行っている。また、アセスメント内容は資料にまとめ職員に回覧している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランは入居して一年間は3ヵ月単位で作成し、家族に説明して思いを共有化するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の思いを確認し、改善に向けた提案・相談を繰り返すことで必要なサービスへと繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様のできる事を把握し、日々のケアを実践している。職員から「ありがとう」と言えるような場面作りを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診時など、できる限り家族と過ごす時間を増やすよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より来訪は少なくあるが、コロナウイルス対策のうえ家族や馴染みの方の来訪を受け入れている	コロナ禍であるが家族の協力を得て、家族や親せきに対面での面会を促して、なじみの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席や居室など、その時に合った場を考慮し実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方及び入院退居の方にも継続的な付き合いを心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけをし、ご利用者の思いや希望を感じ取る事を心掛けている。希望によってはご家族と相談し、できるだけ希望に沿えるような支援に努めている	利用者の高齢化が進み、本人との会話での意向の把握が困難になりつつあるが、家族との面会時に家族からの情報で意向を確認したり、表情の変化で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で情報収集を行っている。面会時に家族から、又はご利用者様とのコミュニケーションから情報収集をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状態や能力に応じて、現存機能を最大限に引き出せるよう自立支援を心掛けている。申し送り等で現状を確認し合い、変化があった場合はすぐ対応するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成前に職員に直接、または専用の用紙にて気づきを報告し、計画作成に反映している	家族からの情報をもとに丁寧にアセスメントを作成し、本人・家族の意向を確認して、職員の日々の気づきや職員が見つける利用者の変化をケアマネがまとめてケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態等は所定の用紙に記録し、気づきや変化などは日々の申し送り及びカンファレンス・家族カンファレンスで取り上げ、実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族からの希望や相談を慎重に聞き取り、できる限り希望に沿った支援を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス関連のため活動など自粛しているが、今後解禁していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関を受診してもらっているが、訪問のできる医院の希望があれば提案させていただいている	入居契約時に、本人・家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。その通院送迎も事業所が行っている。ただ入居後、状態の変化に応じて、定期的に訪問診療のある協力医に変更する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時や排便のコントロールなどいつでも相談できる環境を維持している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法の情報を医療機関へ提供している。病院、ご家族と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化及び終末期支援の指針」に基づいて入居契約時に話し合いをしている。ご本人・ご家族の要望に沿ったケアが提供できるよう節目にはカンファレンスを実施している	原則看取りは行わないことを、入居契約時に本人・家族に説明し納得してもらっている。重度化した場合は、近隣の老人福祉施設を紹介するなど本人・家族の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議やカンファレンス時、避難訓練等に看護師から研修を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	図上訓練を含め火災時、水害時と訓練を実施している。同時に急変時の対応の訓練も実施している。備蓄の十分な確保ができていない	7月・12月に防災訓練・火災・水害想定避難訓練を行った。緊急対応マニュアルに基づいて、防災設備の確認を職員が行って事態に備えている。備蓄の確保も、水・食料品を優先に早急に対策する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人に合った声かけを心掛けており、職員全員が同じ対応ができるよう努める。スピーチロックについても研修し実践に生かしている	管理者・職員は、利用者に合わせて声掛けを心掛けており、言葉使いや利用者の発言を否定しない声掛けをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選べるように提案し、ご自分で決めるように働きかけている。表現が困難な方にはこちらから選択肢を出す等し、ご本人に決定してもらう		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調、状態に応じてご本人にとって一番良い過ごし方を支援している。入浴や食事など、ご利用者様の状態によって時間を調整している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容ボランティアに来てもらい、ご本人の希望に沿ってカットしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はリビングで全員揃って食べてもらっている。一人一人が落ち着いて食べられるような席順を考慮している	施設長が買ってきた食材を、職員が役割分担して調理し提供している。誕生日には、利用者の好みや食べたいものを職員が手作りして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態・量を考慮し提供している。摂取の進まない方には声かけ・介助し、状態に応じて栄養補助剤も併用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に職員がついて口腔ケアをし、夜間、義歯の方は全員預かり洗浄している。歯科医と連携し、月に2～3回往診してもらい一人ひとりに合った口腔ケアの指導をもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りおむつは使用せず、トイレで排泄していただけるよう支援している。おむつの方も日中だけはリハビリパンツで過ごしてもらっている	状態によっては、職員の見守りや介助を受けてトイレで排泄できる利用者も2名おり、あとはリハビリパンツ、紙おむつで対応している。排泄記録表を確認した看護師の指示で、排泄コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を設け、毎日の排泄状況を把握できるようにしている。3日間排便がなければナースに相談し下剤を調整してもらい服用していただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や気分を優先し入浴してもらっている。時間や入浴順もなるべく希望に沿えるよう配慮している	日曜日以外毎日準備し、一日3人ずつの利用者が入浴している。利用者の体調、介護度に応じた入浴方法で入浴してもらい、皮膚状態の改善にも効果があり喜んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息についてはご本人が休みたいときに居室で休んでもらっている。夜間、不安感や不眠傾向が見られる時は、職員がある時間寄り添い、気持ちを静めて入眠されるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を専用のファイルに整理し、最新情報を全職員が共有できるようにしている。薬の変更時には必ず申し送りで伝達している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で、できる方には洗濯物をたたんでもらったり掃除を手伝ってもらったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と外の玄関周りを散歩したり買い物に同行してもらったり、受診以外でもなるべく外気に触れられる機会を設けている	天気が良いときは、ベランダ手前で外気浴をしたり、スーパーへ日々の買い物に職員と一緒にいる。また、リハビリの先生と外に出てリハビリを行ったりして、なるべく外の空気に触れるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いのシステムを全員の方が利用されており、買い物や外食の際にお小遣いから支払うよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡時などに電話で話してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	振り返りができるように、レク等での写真を展示している。現在季節感を体感してもらえらるためのレイアウト作りを強化し、施設内の照明の改装を検討中	日中、利用者が過ごす食堂兼フロアには、南の窓から陽光が差し込んでいる。明るいがより明るくなるように照明の改装を計画している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方が隣同士になるようになど、リビングでの席順を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レイアウトは本人様と家族様に考えてもらっている。身体の状態に応じて家族様と相談し、快適に過ごせるよう工夫している	車いすを利用している利用者が現在半数以上であるため、居室も移動が可能なようにシンプルに家具も設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ及び洗面所は部屋から出て、日常生活で極力移動範囲が広がるように配慮している。又リビング及びトイレと居室の位置関係を状態に応じ柔軟に対応している		